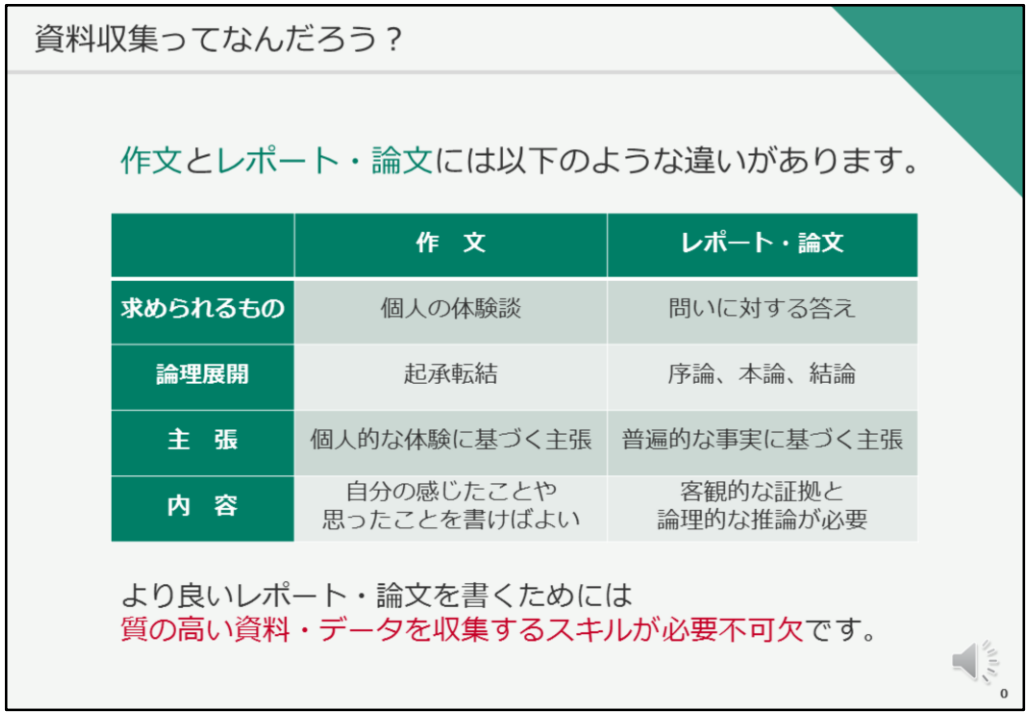
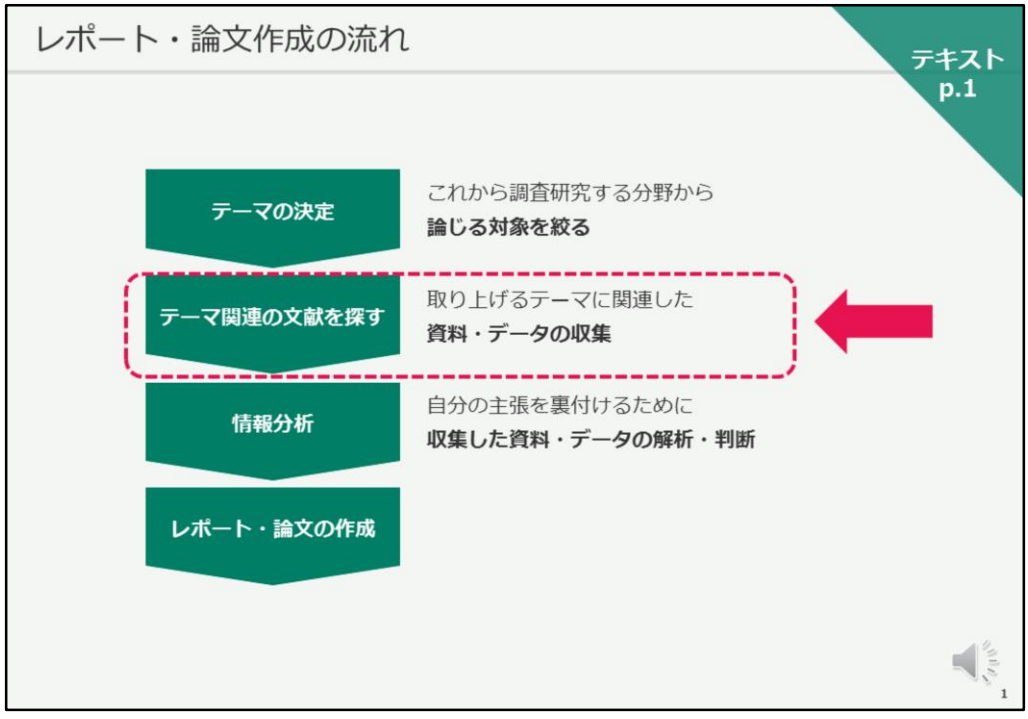


まず始めに、「作文」と「レポート・論文」の違いをおさらいしましょう。

「作文」とは個人的な体験に基づいて、自分の感じたことや思ったことを、起承転結で書くものです。

一方「レポート」や「論文」は、問いに対する答えが求められており、序論、本論、結論で構成され、普遍的な事実に基づく主張を行うものです。客観的な証拠と、論理的な推論が必要とされます。

そのため、より良いレポート・論文を書くためには
質の高い資料・データを収集するスキルが必要不可欠となります。



レポート・論文作成の流れを見ていきましょう。
テキストは1ページ目です。

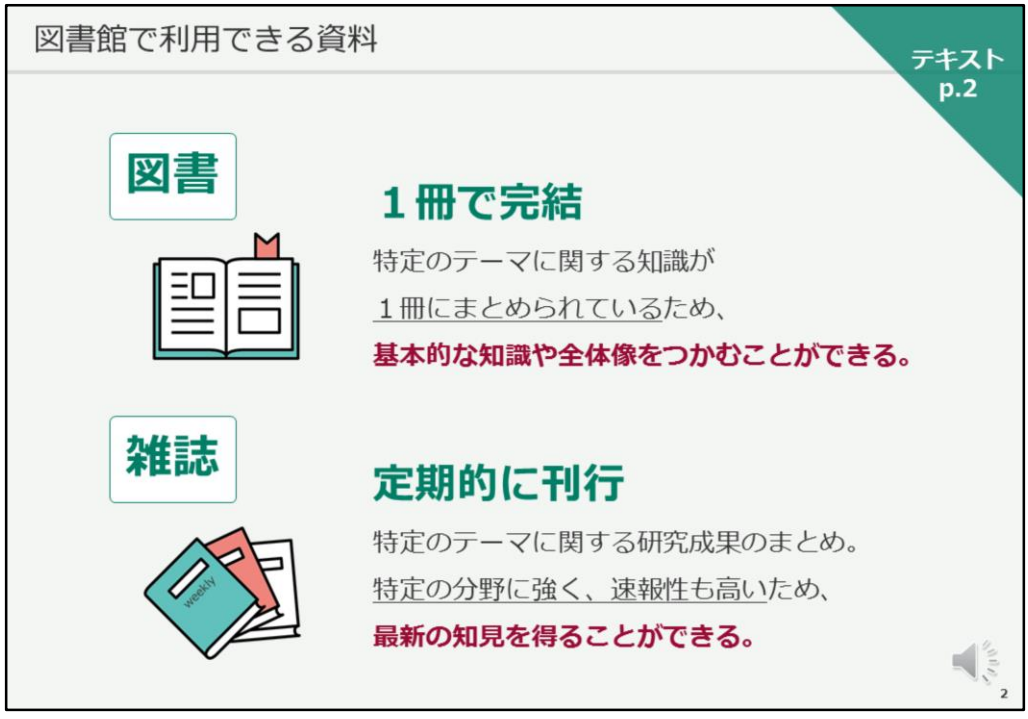
まずは、テーマを決定します。これから調査研究する分野から何について論じていくのか、論じる対象を絞ります。

次に、テーマ関連の文献を探します。取り上げるテーマに関連した資料やデータを収集します。

次に、情報分析を行います。自分の主張を裏付けるために収集した資料・データの解析・判断を行います。

そして、レポート・論文の作成に取り掛かります。

本日のお話は、ここ、テーマに関連する文献の探し方について、説明していきます。



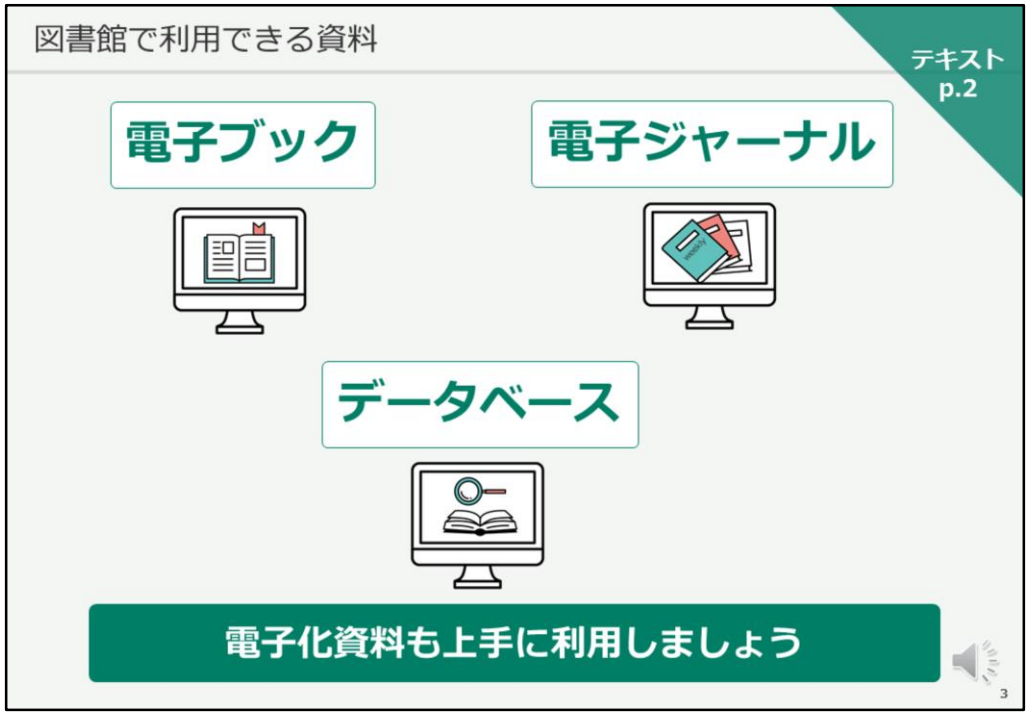
それでは、図書館で利用できる資料についてご説明します。

テキストは2ページ目をご覧ください。

まず、「図書」と「雑誌」について見ていきましょう。

「図書」とは、1冊または複数冊で完結するもので、特定のテーマに関する知識が１冊にまとめられているため、基本的な知識や全体像をつかむことができるツールです。

次に「雑誌」とは、1年ごと、4ヶ月毎、1ヶ月毎など、定期的に刊行されるものです。特定のテーマごとに雑誌が刊行されていますので、特定のテーマに関する研究成果がまとめられたツールともいえます。
特定の分野に強く、速報性も高いため、最新の知見を得ることができるのも特徴です。



図書館で利用できる資料には、紙だけではなく、電子化された資料も沢山あります。

具体的には、電子ブック、電子ジャーナル、データベースと呼ばれるツールがあります。

これらの電子化資料も、ご自分のニーズにあわせて上手に活用してください。

それでは、資料収集の流れをご説明いたします。

テキストは3ページ目をご覧ください。

まずは、これから検索を行っていく際に使用する検索キーワードを見つけます。

1つのキーワードだけで検索をすると、検索漏れが生じてしまいますので、必ず複数のキーワードで何度も検索を行なってください。
ご自分が思いついたキーワードの同意語や、関連語を使用するとよいでしょう。

同意語や関連語が思いつかない場合は、百科事典や専門用語事典で調べるとスムーズです。
検索キーワード探しには、長崎大学で契約している百科事典データベース「JapanKnowledge Lib」が役に立つと思いますので、是非使ってみてください。

検索キーワードが決まったら、テーマに関する図書を検索し、その所在を確認して、入手しましょう。

テーマによっては、白書と呼ばれる資料や、統計資料なども必要になるかもしれません。官公庁で作成された白書や統計資料はWebで無料公開されていることもありますので、それらの資料も活用してください。

長崎大学の図書を検索する際には、OPACというツールを使用します。OPACについては、後程、詳しくご説明します。

次に、雑誌論文を検索します。

テーマに関する論文を探し、入手しましょう。

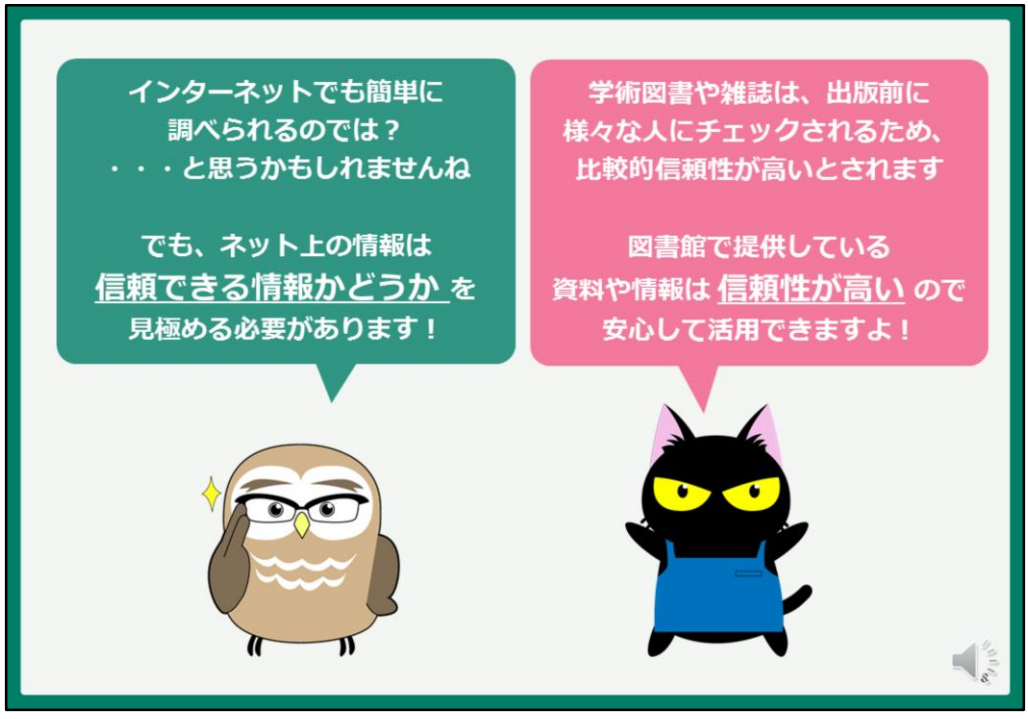
論文が載っている雑誌名がわかったら、紙の雑誌、または電子ジャーナルが長崎大学で見られるかを検索していきます。

日本語の論文の検索にはCiNii Research、海外論文の検索にはScopusがおすすめです。

レポート・論文のテーマによっては、その他の資料が必要となることがあります。
必要に応じて、その他の資料も収集していきましょう。

例えば、テーマによっては、最新の動向や歴史的な流れを知るのに、新聞記事が有効な場合があります。

長崎大学では、各種新聞データベースも契約していますので、Web上で新聞記事を検索することが可能です。



さて、ここまでの話を聞いて、色々な検索ツールを使用しなくても、インターネットでも簡単に調べられるのでは？

…と思った方もいらっしゃるかもしれません。

確かに、インターネット上にはたくさんの情報があり、検索すると有効な情報も見つけることができます。
しかし、インターネット上で検索した情報は、誰が書いたのか、根拠があるのかどうか、など、信頼できる情報かどうかを見極める必要があります。

その点、図書館で提供している資料や情報は、信頼性が高いものを集めて皆さんにご提供していますので、安心して活用できます。

レポート・論文の作成に必要な情報を集める際には、図書館のツールを積極的に利用してください。